町民文芸

短歌

御袋の享年に並んだ我が生命
宿痾を背負って八十坂をゆく
北野津　宮本　末秋

陽炎の春の氷川の白き影
花と思へば宙に舞ふかな
北野津　井田　道寛

我が町と貴方の街をつなぐ橋
瀬戸は日暮れて灯り煌く
西野津　古崎スエノ

窓叩く北風雨水の夕暮れの
下屋に野良猫身を寄せる
西野津　古崎　栄子

何日の間に孫妹の植えくれ一輪の
葉ぼたんそそぐ我への活力
南鹿野　尾崎　京子

足跡を残せし山々ふり仰ぎ
ふり仰ぎつつ歩む里道
西上宮　村内　一誠

大作を一気読破のあの気力
今はいずくぞ日に数ページ
吉本　橋村　正之

熊本城マラソンに知るランナーの
苦労のドラマに涙してをり
吉本　髙橋　澄子

ひともとの蠟類照らす妻も吾も
ひたすら祈る今日の倖せ
桜ケ丘　宮崎敬四郎

光りさす窓に浮んだ白き雲
この身も乗せて旅に行たし
上鹿島　前村　俊子

俳句

山茱萸の陽光に映えて黄金花
北野津　宮本　末秋

風も濡る春満月の氷川かな
北野津　井田　道寛

山椿重ねて散らす通学路
西野津　古崎スエノ

ひな灯り孫妹と重なり梅香る
南鹿野　尾崎　京子

高圧線春の雨雲つきぬけて
町　香山菊童子

愛らしさ曾孫のひな顔スマホかな
西野津　古崎　栄子

赤や黄菫咲く家通りけり
吉本　髙橋　澄子

憂き事は笑ひにかえて春月夜
桜ケ丘　宮崎敬四郎

緑なす庭に優しき春の雨
桜ケ丘　吉田　照子

身にあまる香煙かぶる春彼岸
桜ケ丘　宮崎トシ子

春日さしはずむ話の昼食時
町　田中　澄子

小城の町娘の家に孫の雛
西上宮　村内　一誠

ひな飾り老いも楽しむ白き酒
上鹿島　前村　俊子

※投稿先が変わります

投稿について
・楷書で記入し、漢字には全て読みがなをふって投稿してください。
・内容確認する場合がありますのでお電話番号を明記してください。
・**毎月8日必着**
※遅れて投稿された場合掲載できない場合があります。あらかじめご了承ください。

投稿先
〒869-4814 氷川町島地642番地
企画財政課　企画係☎52-5850

漱石と家族と「漱石山房の人々」
～手探りで～Dernier Memoir

法道寺　本田　花風

さて、そんなこんなで、切り抜きに移る。

一日目、「心」は大正三年四月二十日に始まった。それから、「三四郎・それから・門」と続いたが、切り抜きはそこまで。以下は読むのが面倒になって頓挫してしまった。それでよかったのだ。その連載中に多くに文学者や識者たちが漱石論を寄稿しその数は無数、それもここまで切り抜いていたが、改めて目を通すと学者から女優まで、読んだ記憶はあるが中身は脳から破壊されていた。

自分が漱石を語る価値、意味が全くないと気づく、識者の視点さえも通読ではよく理解できないのだ。そこで戦略の舵を切り替えることにした。漱石という名は知るが、彼の人生の裏側の、一部は知っているだろう、お札になった漱石や、右腕をこめかみにポーズをとった写真の顔つきは文豪そのものである。しかし、大奥までは知らない人が多数であろうと察する。

彼の作品はそれほど多くない。ひも解くに、資料を整理した。「漱石全集」「雑誌・国文学・解釈と研究（昭和四十八年～五十二年まで）」そして、「漱石山房の人々」「新日本文壇史・漱石編」そして新聞の無数の切り抜きがある。

その切り抜きから、編集を始める。

金子兜太（九五）VSドナルド・キーン（九二）の対談から、金子は九八で亡くなった。「安倍政治は許さない」とプラカードに揮毫。気骨の人である。折しも昨日（平成三十年六月二十二日）八百人がお別れの会に訪れた。

（「入社の辞」二九〇七年五月三日東京朝日新聞）

文化財つれづれ

氷川町内の文化財を紹介するコーナーです。

川上の餅つき（町指定無形文化財）

川上の餅つきは、川上地区に伝わる文化財です。

始まった時期は不明ですが、その昔、山伏が困っていたとき、川上地区の人がその山伏を助けたので、そのお礼として教わったと言い伝えられています。また、ある所から習い覚えたものとも伝えられています。かつては、餅つきに関する文書がありましたが、明治10年氷川戦争（氷川における西南戦争の戦いの1つ）の時に焼失してしまいました。

この行事は、主に雨乞いのために行われましたが、建物の落成祝いなどにも行われました。浴衣・手甲・脚絆（きゃはん）ぞうり・顔には薄く化粧をした成人男性が、笛や太鼓に合わせて臼を転がしたり、動作をしたり、面白い口上とおかしな動作に特徴のある行事です。

【お問い合わせ先】氷川町教育委員会 生涯学習課 ☎52-5860

八火図書館だより

こどもの読書週間だ　本を読もう！

4月23日から5月12日は「こどもの読書週間」です。

「子どもたちにもっと本を！」との願いから、1959年に始まり、今年で61回目となりました。

幼少のときから書物に親しみ、読書の喜びや楽しみを知り、ものごとを正しく判断する力をつけておくことは、子どもたちにとってとても大切なことです。

また「こどもの読書週間」は、子どもに読書を勧めるだけでなく、大人にとっても子どもの読書の大切さを考える習慣でもあります。

この機会に親子で読書について考えてみませんか？

新着図書

一般書	児童書
隠蔽捜査7　棲月　今野　敏／著	旅からわかる江戸時代　深光　富士男／著
続　横道世之介　吉田　修一／著	昨日のぼくのパーツ　吉野　万理子／著
中高生のお弁当304　成沢　正胡／著	あかいのあつまれ　穂高　順成／作
おとなの温泉宿ベストセレクション100九州　まっぷる	あいうえおりょうりめしあがれ　accototo／作
甲斐青萍熊本町並画集 江戸・明治・大正・昭和　伊藤　重剛／編	えいごえほん百科スタート　石毛　隆史／監

開館時間
平　日　10時～18時
木　曜　10時～20時
土日曜　10時～17時

休館日
月曜・祝日
※詳しくはスタッフにお尋ねください。

【お問い合わせ先】八火図書館　☎62-3489　http://www.hikawa-lib.jp/info/hakka/